表第一　［略］ 表第二　［略］ 図　［略］ ［号を削る。］	P　第六号に定める吹出し量決定圧力（単位　絶対圧力により表示されたメガパスカル）の数値 A　吹出し面積（単位　平方センチメートル）の数値 TM　液化石油ガスの分子量の数値 T　吹出し量決定圧力における液化石油ガスの温度（単位　絶対温度） Z　図に示す圧縮係数の数値。ただし不明の場合のZは、一・〇とする。 表第一　［略］ 表第二　［略］ 六　図　［略］ 吹出し量決定圧力は、当該安全弁を設置するパルク貯槽の設計圧力の一・二倍の圧力以下の圧力であること。
備考　表中の［　］の記載は注記である。	

○経済産業省告示第八十八号

補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和二十年法律第百七十九号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和三十年政令第二百五十五号）の規定に基づき、並びに同法及び同令の規定を実施するため、原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金交付規則の一部を改正する規則を次のようにで告示する。

平成二十九年三月三十一日　経済産業大臣　世耕　弘成

原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金交付規則の一部を改正する規則

原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金交付規則（平成二十七年経済産業省告示第二百二十二号）の一部を次のように改正する。

様式第二の添付資料⑦中「交付規則」を「交付要綱」に改め、同様式の添付資料㈣を次のように改める。

㈣　(1)　用紙の大きさは、日本工業規格に定めるＡ４とし、横位置とすること。

(2)　⑤については、

イ　様式第６を用いて作成すること。

ロ　同一又は類似の事業を過年度に実施している場合は、当該事業に係る直近の事業評価報告書の写しを添付すること。

様式第六を次のように改める。

様式第６（第11条関係）

年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金事業評価報告書

年　月　日

殿

住所

氏名（名称及び代表者の氏名）　㊞

年　月　日付け第　号をもって交付の決定の通知を受けた原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金にかかる交付金事業の成果の評価について原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業交付金交付規則第11条第３項の規定により別紙のとおり報告します。

㊟　(1)　別紙は次の事業評価総括表及び事業評価個表の様式によること。

(2)　用紙の大きさは、日本工業規格に定めるＡ４とし、横位置とすること。

別紙

Ⅰ．事業評価総括表

（単位：円）

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は間接交付金事業者名	交付金事業に要した経費	交付金充当額	備　考

（備考）事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

Ⅱ．事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称		
交付金事業者名又は間接交付金事業者名				
交付金事業実施場所				
交付金事業の概要				
総事業費		交付金充当額		
交付金事業の成果目標				
交付金事業の成果指標				
交付金事業の成果及び評価				

交付金事業の契約の概要

契約の目的	契約の方法	契約の相手方	契約金額

成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無	
交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度	

（備考）(1)　事業ごとに作成すること。

(2)　番号の欄は、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。

(3)　交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第１条に規定する同法の目的の趣旨を踏まえて具体的に記載すること。

(4)　交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。

(5)　交付金事業の成果及び評価の欄は、当該事業の説明及び交付申請時における目標（進捗度、利用量並びに効果）を出来る限り数値を用いて記載すること。

(6)　交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

(7)　成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、第三者機関等の名称及び構成員等を記載すること。

附　則

この規則は、平成二十九年四月一日から施行する。